

第8回 佐世保市 前畑弾薬庫跡地利用構想検討有識者会議 概要	
日時	平成29年11月17日(金) 14時00分～15時00分
会場	佐世保市総合教育センター2階 中研修室
公開・非公開	公開
出席者	古賀委員、湯川委員、飯田委員、辻委員、山本委員、指山委員、松永委員、崎田委員、田雑委員、西川委員、草場委員、井手委員、森岡委員、朝永委員、中野委員、山口委員、飯田委員、藤木委員(代理:岡本氏)、田中委員 ※順不同/敬称略
欠席者	片岡委員、原委員 ※順不同/敬称略
会次第	1. 開会 2. 議事 前畑弾薬庫の跡地利用に関する報告書の確認 完成報告について 3. 閉会
結果(要旨)	・「跡地利用に関する報告書」について、その完成を確認し承認を得た。 ・11月29日に正副座長より市長へ提出することを確認した。



第8回有識者会議

□議事

座長： こんにちは。お忙しい中お集まり頂きましてありがとうございます。今回でこの会議は最終回となります。昨年11月8日が第1回の開催でしたが、それから丸一年、なかなか難しいテーマであったと思います。各委員と議論を重ねることができ、そして、本日は報告書の完成を迎えることになり、非常に感慨深く思っています。

この間、各委員におかれましては、非常に活発にご議論を頂くとともに、会の運営にもご協力頂いたことに重ねて御礼申し上げます。

本日の議題は、次第のとおり「前畑弾薬庫の跡地利用に関する報告書の確認、完成報告について」となっています。本日の資料につきまして報告書一式をお手元に用意しています。

この報告書につきましては、前回の会議におきまして、我々正副座長に文章の校正などの作業を一任頂きましたので、ここに整えることができました。また、概要版も一緒に添えております。

本日は、この概要版を中心に事務局から説明して頂き、完成報告としたいと思います。そして、最後に、委員の皆様よりコメント、感想を賜りたいと存じます。そして、今月29日、我々正副座長が、皆様の思いを含めて、この報告書を市長に提出したいと思います。

では、事務局より説明をお願いします。

事務局～資料に基づき説明～

座長： 前回の議論を踏まえた上での報告書が確認できたかと思います。ここに報告書が整いましたので、これを持ちまして完成報告とさせて頂きたいと思います。委員の皆様これでよろしいでしょうか。

～委員から「異議なし」の声あり～

座長： ありがとうございます。事務局からは概要版の説明でしたが、報告書の本編と資料編につきまして、後ほどご確認して頂ければと思います。

それでは、各委員におかれまして、感想ということで一言ずつご発言をお願いします。

A委員： 南地区の自治協議会は、24の町内会、小学校、PTA、商店街など50の団体が集まった組織です。自治協議会においても、いろいろな意見を集約しながら参加したのですが、最初に私が感じたのは、前畑弾薬庫の移転・返還を私自身がよく知りませんでした。報告書にあるように、針尾島に移転した後に返還という日米合意がなされました。その際に米軍の住宅をつくり、弾薬を保管する場所、そして船の接岸をつくっていくという大きな方針が打ち出されていました。

当初、簡単な移転・返還で済むかと思っていましたが、この会議に参加し、現状が分かってきました。地域でアンケートをとりましたが、地域の人でさえも、前畑弾薬庫に100年近く入ったことが無いという回答でした。日本遺産の話が出て、旧日本海軍の施設があった旧軍港ということで日本遺産に認定されました。その周辺にあるレンガ造りの建物が日本遺産になったということが分かってきました。

しかし、100年近く誰も入ったことがないところについてアンケートをとっても、「安全・安心のまちづくりをつくっていく」という平準的な意見しか出ませんでした。今回の前畑弾薬庫の話とは別に、現在、南地区では「風と海との煉瓦のコース」ということで、南地区のまち歩きマップ作りに取り組んでいます。その概要について、「地域の人や

観光客、県外の人も含んで周辺を散策しよう」ということで、“さるく博”のように“佐世保みなとインターチェンジから海岸線を見て、西九州倉庫のサイロの建物があり、倉庫の内部で昔の弾薬庫の玉を詰めるところなどを見学し、前畑弾薬庫の入り口を見て、もし入れるなら入口だけでも入れれば良い、そして、4月の干尽公園の満開の桜を見る”などといった計画を進めています。

跡地利用の将来像と跡地の担うべき役割について、自然と歴史を謳っており、加えて観光、産業の立地も入れました。そして返還後の跡地利用、担うべき役割は、地域から言えば、日常生活空間の一つにしてほしいということです。例えば生活の利便が図られる場所にしてほしい、潤いと癒しのある場所にしてほしい、そして地域が誇れる場所にしてほしい、という要求（考え方）を出しました。正副座長のとりまとめの結果、我々が求めている自然も入っていますので、今後新たに発展していく地域になろうかと思えます。ご苦労さまでございました。

B委員： この会議の第1回目で発言したのですが、天神地区、崎辺地区の道路交通網がまったくできていないので、前畑弾薬庫の跡地を利活用するにあたっては、前畑崎辺道路とつなげてほしいと言いましたが、この報告書の動線の考え方では、触れられていないので、そのあたりに踏み込んで頂き、実際、実現の時には取り入れて頂きたいと思っています。

C委員： 自然と歴史を活かした新しいまちづくりを進めていく方向性が出てきて、非常に良かったと思っています。特に、明治期や大正期の建物は、日本の中で佐世保は量が一番多いと言われています。しかし、そのほとんどが米軍とSSK、自衛隊の中にあり、一般市民が普段見られる場所がないのです。前畑弾薬庫が返還されると、市民のための新しい拠点になって、さらに人の手が入っていない山林部は自然を守っていく新しい拠点になると思います。新しいまちづくりに向けて、早期の返還を実現していきたいと思っています。

D委員： 今回、この会議の中で跡地が担うべき役割、活用のあり方を考えることで、普段あまり考えることが少ない佐世保のまちを考える良い機会を頂きました。今後の跡地利用についての動向にも関心を持ち続けていきたいと思っています。

E委員： 1年の長きにわたり、さまざまご意見が出る中、正副座長のリーダーシップのもと、当初の予定通り、報告書をまとめられたこと、本当にお疲れ様でした。今後は佐世保市の構想がとりまとめられることになりましたが、返還の手続きに携わります九州防衛局の一員として前畑弾薬庫の早期返還に向けて、関係部署との調整などを進めていきたいと思っています。

F委員： 佐世保に住んでみて感じたのは、自然と歴史的資産に恵まれた土地であるということでした。そして今回の前畑弾薬庫も貴重なものであり、検討を経て、正副座長、委員の方々、市基地政策局の方々のご尽力もあって、自然と歴史的価値の両面から検討が行われて、素晴らしい報告書になったと思っています。個人的にはあまりお役に立てなかったと思っていますが、今後返還が進み、今回の構想に基づいた計画がいずれ具体化していくことになろうかと思えます。その段階では、海の安全を担う海上保安部としまして、防災面、海上工事、そして海上からのアクセスといった面での安全面などサポートしていきたいと思っています。

G委員： 有識者会議の最終回をむかえ、産業界をはじめ各業界を代表するの方々、周辺地域にお住いの方々など多方面から幅広い意見が集められたことについて、あらためて佐世保市における当該跡地の有用性や将来性を感じたところです。佐世保地方総監部としまして

は、約1年間、このような貴重な機会に参加させて頂き、誠にありがとうございました。今後とも地域との絆を大切に、円滑な運営に努めてまいりたいのでどうぞよろしく願いいたします。

H委員： 本日で最後ということで、正副座長、委員の皆様、市役所の皆様、どうもお疲れ様でした。前畑弾薬庫の米軍からの返還というのは、針尾島への土地の整備、弾薬庫の機能移転が条件となり、現時点では返還はいつ頃か、ということは未定という形かと思えます。ただし、地元から活用にあたっての方向性を示しながら、各方面に働きかけを行うということで、そういった動きが早期の返還につながっていくのではないかと考えていますし、そうあってほしいと思っています。また、返還がなされたら、場所的にもそうですし、海に面し、自然豊かな財産なので、佐世保市民にとって非常に貴重な財産、資源ですので、有効な活用を期待しています。

I委員： いろいろ検討されているので言うことはないです。移転先を早く建設しなければ移転・返還はありえないということのようですので、事務局で頑張ってください。

J委員： 弾薬庫につきましては、旧日本海軍の歴史的遺産としての現況をとどめながら、跡地利用については、報告書に示されているとおり、最初に目指した目標はほぼ網羅されていると思います。正副座長、事務局に敬意を表します。お疲れ様でした。

K委員： 2つの柱として「観光振興」と「産業振興」に分けてまとめてもらい、非常に立派なものになったと思います。皆さんが将来像を念頭におき、意見を出したものをよくまとめて頂きました。ただ、この方針がバラバラに存在するのではなく、根っこは同じものだと感じています。そういったことを融合していくことが、今後の市としての行政面の仕事になるかと思っています。各界のさまざまな意見を取り入れてもらいました。市民にこれらを提示し、さらに良い方向付けができることを念頭に置いて頑張してほしいと思います。

L委員： まとめとしては「観光」と「産業」をキーポイントとして議論が進んでいったと思います。その中で、市民が安心して暮らせる安全安心の防災ゾーンや、市民が参加して地域のまちづくりを行うという認識の中で、市民が関わっていくというような提案が大まかなことだったかと思っています。私は、名切地区のサイン整備のように都市公園法のPFI・PPP、報告書の「5章の実現に向けて」にも書いてありますけれども、これを導入することによって民間のノウハウや資金導入、質の高いサービスが市民に提供できるのではないかと考えています。

それから官民連携によるパークマネージメントの導入、それと公園については、佐世保は、公園はたくさんあるけど四季を感じる公園の数が少ないと感じます。また多くの方が、佐世保は木がたくさんあると言われますけど、環境を考える上では、樹木にしても手がかからない樹種、そして維持管理がかからない手法がたくさんあると思います。そして、樹木が根上りして支障をきたしているところも歩道にはありますので、そういったところから環境を考えることは重要であると考えています。仕事柄、十数年、前畑も含め米軍関係の樹木の管理をさせて頂いています。そういった関係で普段感じるのですが、アメリカと日本の中で少し認識が違う気がします。そういったことを両国が密接に交流し、市民が軍と交流し、理解し合い、環境づくりをすることが返還の大きなポイントではないかと考えています。今後、いろいろと問題もあるかと思いますが、実現に向けて早期に解決してほしいと思います。

M委員： この会議に出まして港内視察で海から見せて頂きましたが、私は海から初めて見まし

た。建設業は景色を壊すことも行いますので、自然の美しさというものが、赤崎岳の上から見るのがよくあるのですが、海から見ると全然違う美しさがあるということを感じました。

今後、このようなことも考慮しながら建設業もやらないといけない、特に問題になっているのは、災害に強いということで、大規模災害という時に最初に出動するのは建設業ということで、我々業界と役所に取り入れて頂ければスムーズに行くのではないかと思います。いろいろな面の意見が聞けて非常に勉強になりました。ありがとうございました。

N委員： 1級建築士でもあり、文化庁のヘリテージマネージャーの資格ももっており、建築とヘリテージ、市民の憩いとコミュニティという個人の二つのコンセプトをもって、次世代につなぐ佐世保の宝物ということでレポートを書かせて頂きました。

保存と活用ということで前畑の素晴らしい遺産を有形文化財に登録し、伝統的建造物群保存地区に登録することを発言してきました。日本の近代化遺産は110ほどありますが、赤レンガ群はありません。ここが将来的に登録されれば、日本遺産が拡大した観光の地区になります。全国に発信して観光振興につながるようにして頂きたいと思います。

20年も30年も先の話ですが、実際にこの目で見たい、夢を形に実現する姿を見たい。20年も30年も先のことですが、皆さん、見たいですね。とにかく、今回は楽しんでやらせて頂きました。私もいろいろな審議会に出ており、短期的な話であつたりしますが、この話は長期的な話で夢を形にできるものだったので、楽しくアイデアを出させて頂きました。次世代の佐世保のために将来頑張りたい、お世話になりました。

O委員： 皆様ご苦勞でございました。決定的なことは、これが返還にならないと動かないものですが、返還になれば夢が進むと思います。しかし懸念しているのは、人口減少で、今の25万人が30年後には15万人くらいなるということで、大変なことだと思っています。

企業誘致をしており、いろいろ努力して、少しずつ進行しています。そういった面では評価ができるかと思っていますが、工業会に加盟しているのは47社で、佐世保市のものづくりの企業は100社程度で規模は小さいです。観光は非常に良いと思いますが、産業の面では非常に劣っています。長崎市は三菱があるのでいろいろ仕事の関係でもたくさんありました。しかし佐世保市でのものづくりは地元にはたいした仕事がなく、県外に出て仕事をとってくるのが現状です。そういった意味からも企業誘致は重要で、弾薬庫の返還は一つのきっかけになると思います。まず海に面している場所が特徴、それからトンネルがある、そして干尽公園を整理して造成して工業団地をつくってはどうかという話も出ていて、企業誘致ができればと思います。自動車の関係は自動運転できるようにということで、そういった関連の企業は、20年後は売り上げを10倍にしようということで設備増強や設備投資をやられている企業がたくさんあります。ロボット産業も同様で今季は増進増益です。今から進んでいくであろう産業を誘致できるのではないかと考えています。企業誘致には、お金をかけないで、企業に出してもらい誘致を進める考え方が特徴かと思っています。

返還は早くできればありがたい、先の話は企業にとっても夢の話なので、5年後、遅くとも10年後にできるのであれば、いろいろな産業において、例えば医療ではAIを使った分析をして病気が確実に確認できるものも盛んにされています。先進的な企業を誘致してもらえればと思っています。

P委員： 観光振興と産業振興ということで2つの大きな柱という一定の結果が出たかと思って

います。正副座長はじめ事務局、委員の皆様お疲れ様でした。一刻も早く返還が進むことを祈念しております。我々の業界内で、産業振興という観点から、いろいろ意見を聞きました。残念ながら具体的な意見は出ませんでした。吃水の関係で浚渫が相当必要であることなどが分かりました。我々隣接地で仕事をするものとしては、そういった可能性を考えながら仕事をしたいと思えます。

Q委員： 佐世保にとっては非常に貴重な資源だと思います。長らく米軍施設ということで活用策を考えたことがない、という意見が多数でした。この提言をきっかけにして、市民の皆様の中から早期返還の機運が高まっていくことを期待しています。

座長： R委員は公務により欠席ですが、事務局がコメントを預かっているということですので、ご紹介下さい。

R委員（事務局代読）：1年間にわたり、委員の方の意見をはじめ、市民の意見を集めながら、ある一定の方向性を示すことができたのは、非常に喜ばしいことだと思っています。この結果は、次世代へのメッセージだと思っています。今後は次世代に伝えなければならぬという事業スケジュールもある中での良い事例になると思っています。この委員会に参加できたことに対して感謝申し上げます。

副座長： 思えば今年の11月に会合があつてから1年が経ち、委員の皆様にはお集まり頂き、また現地の現地調査もやって頂き、ご意見や考え方を示して頂き、このようにまとめることができたこと厚く感謝申し上げます。

観光面、あるいは産業面、市民の生活面というものも踏まえて、それぞれの専門的知識、そして地域住民代表としての意見をまとめさせて頂きました。もちろん、行間ににじむ思いを充分に受けとめながら、これから後世に伝えていかなければならないと思っています。

現状では、弾薬庫で米軍への提供施設でありますし、制限水域としても最も厳しいA水域であります。それらを踏まえた上での議論でしたが、今回、まとめることによって前畑弾薬庫の早期返還に弾みがつくと確信しています。市民にとっての大切な宝物である地域であります。ここを何とか有効活用していきたい、という意見をまとめることで返還の速度を速めなければならないと思っています。このことを皆様もそれぞれのお立場でぜひ発言して頂き、これが実るように、しっかり活動をお願いしたいと思います。ご協力頂きましたこと厚く御礼申し上げます。

座長： 各委員の皆様、1年間本当にありがとうございました。ご多忙の中、お時間をつくって頂きありがとうございました。一定の方向性を示せたのは良かったです。複数の委員から移転・返還の時期を含め発言がありました。実際の移転・返還は非常に難しい問題で、市民のイニシアチブで簡単にできないところですので、行政、政治にバトンを受け継いで頂きたいと思えます。この会議は行政・政治を市民・各団体が支えていくというメッセージでもあると思っています。1年間本当にありがとうございました。

事務局： 本日、報告書をまとめて頂き、ありがとうございます。昨年11月から会議を開催させて頂き、本日が第8回ということですが、それ以外でもそれぞれの団体でアンケートをとって頂いたり、意見集約をして頂いたり、事務局がヒアリングにいたり、この会議以外にも議論するお時間を頂き、そういったことも含めまして御礼申し上げます。

今後、市の構想を練り上げていくにあたり議会と調整を行っていくこととなりますが、本市の重点政策課題の1つであり、一日でも早くという思いで、国会議員への要望など様々なチャンネルを使いながら、市民がどう思っているのかを示すことにより移転・返

還の弾みになればと考えております。

前畑弾薬庫の移転・返還につきましては、平成 23 年 1 月に日米合同委員会で移転・返還の合意はなされています。条件として、移転先に同等のものをつくれれば返還されるということです。この点につきましては引き受ける地元の方が、国策、市の政策に協力しても良いと返事を頂いてから、すでに 10 年経過しています。少しでも早く移転・返還を進めたいということで、市の構想策定にあたり、この有識者会議での検討を始めたものです。ただいつ返ってくるのか見通せない中でのご議論は、ご苦勞もあつたかと思ひます。

それからもう一つの特徴として、市が計画などをつくる場合、最初から案をつくって意見を頂くやり方と、意見を出して集約して下さいというやり方がありますが、今回は後者のやり方をとりました。今回のご議論は、単なるチェックではなく、意見を出して頂く機会が多かつたかと思ひます。

11 月 29 日に正副座長からこの報告書を市長に直接手渡します。それを受けて市としての構想案をつくりあげたいと思ひます。傍聴席に 4 人の市議会議員もお見えですが、議会との調整ということで、議員の意見も聞きながら作業に入っていきたいと考えています。そしてパブリックコメントを行い、市民に広く意見を募りながら、今年度末までに市の意見をとりまとめたいて考えており、その際は、改めて報告させて頂きたいと思ひます。

座長、副座長、委員の皆様、ありがとうございます。これ以外にもさまざまな場面において市政運営に、引き続きご協力、お力添えをよろしくお願ひいたします。

座長： それでは閉会します。1 年間ありがとうございます。

以上